

[illegible]

基本方針				取組	実 施 時 期													
柱	方向性	取組内容	目指す姿	具体的行動	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	中期	長期
2 子 ど も の 主 体 性 を 育 て ま す	子どもの 主体性を 育む授業 へ転換しま す	主体的・対話的で深 い学びへ	学びの過程を大切にし、 生徒の存在や意見が尊 重される授業づくりを推 進する教職員	コミュニケーション能力を育成し、協働して学び 合う授業づくりをめざした校内授業研究を実 施する。						授業研		授業研					継続	継続
	子どもが 参画する 学校づくり を行います	学校行事は子ども主 体で行います	感動のある学校づくりを 担う一員として活動する 中で 自己有用感をもち、 自己肯定感を高める生 徒	生徒会で行事の内容や校則の見直し等につ いて話し合い、生徒が学校運営に参画する。	会議 迎える会	会議	体育大会 生徒総会	会議		会議	会議 文化的行 事	会議	会議	会議	会議	送る会	継続	継続
	児童会・生 徒会を活 性化します	サミットで学校間交流 を図ります	各校での様々な取組みを 参考にして、自校に適し た具体的な取組みを模 索、実施する生徒	市で行う児童会・生徒会サミットに参加し、意 見交換を行い、自校の取り組みに活かす。					サミット	サミット結 果を全生 徒に報告							継続	継続
	子どもへ のエンパワ メントを促 進します	自殺予防教育を行いま す	生涯を通じて心の危機に 直面した場合の対処スキ ルを身に付けた生徒	生徒を対象とした自殺予防につながる教育プ ログラムの授業を実施し、成果と課題をつか む。				授業 検証									継続	継続
		いじめ防止教育につ ながるゲストティー チャーの授業を行いま す	人権を守ることの重要性 について理解を深める生 徒	弁護士、警察官、大学教授など人権に関する 講師による出前授業を生徒対象に実施する。		授業											継続	継続
3 部 活 動 を 改 革 し ま す	部活動の あり方を見 直します	宝塚市部活動ガイド ラインの徹底を図りま す	部活動の意義や目的を 認識し、より安全で充実 を目指した目標のもと生 徒のいきいきとした姿を 育む教職員	年度当初にガイドラインの内容について校内 で研修を行うとともに適宜生徒と顧問がガイ ドラインの内容を確認する。 部全体の目標を定める。 保護者会等により、家庭との連携を進める。	研修 確認 保護者会 (通年適宜)				確認					確認			継続	継続
		顧問は、部全体の目 標を踏まえ生徒一人 ひとりに合った目標設 定を支援し、各生徒が その目標を達成するこ とをサポートする姿勢 で部活動指導に臨み ます	一つの部活動内での閉 鎖的な取り組みではなく 常に全体での情報共有、 共通認識のもと部活動 を運営する教職員	職員会や顧問会等を通して、生徒のサポートを ふまえた部活動のあり方について教職員の共 通理解を図る。 部活動の問題について生徒指導委員会や学 年会等との連携を図り、情報を共有する。	顧問会 生徒指導委 員会等					顧問会 生徒指導 委員会等				(顧問会) 生徒指導 委員会等	生徒指導 委員会等	生徒指導 委員会等	継続	継続
	生徒が主 体となった 部活動の 運営を行 います	部活動の方向性、内 容を生徒と顧問が話 し合って決めます	部活動運営に主体的に 取り組む生徒とそれをサ ポートする教職員	各部長と教員が意見交換や学校全体の約束 などについて共通理解する場(部長会等)を設 ける。	部長会 ミーティング		部長会			部長会				(部長会)			継続	継続
		生徒一人ひとりの悩 みや疑問を尊重しま す	生徒一人ひとりとの意見 交換を大切にする教職員	面談やアンケートを通して、生徒一人ひとりの 悩みや疑問を把握し、対応する。		アンケート 面談				アンケート 面談					アンケート 面談		継続	継続
		丁寧なミーティングを 行います	生徒の主体性を尊重しな がら共通理解を図る教職 員	生徒と顧問が対等で建設的な関係でのミー ティングを行う。	ミーティング												継続	継続
4 チ ー ム 学 校 で	学校の組 織対応力 を向上さ せます	教師がSOSを出せる 教師集団を作ります	全校体制で意識や取組 の方向性を同じくし、一枚 岩の組織となって取り組 む教職員	教職員一人一人が声かけを意識して、あらゆ る場面で年齢や経験、学年等の枠を超えて話 し合い、意見の言える風土をつくる。	職員会 学年会 いじめ防止 委員会 生徒指導委 員会				グループ 討議								継続	継続
		多職種連携を推進し ます	SC・SSW・関係機関等と 迅速、円滑に連携する学 校	ケース会議や相談など適宜SC・SSW・関係機 関等との連携を図る。	ケース会議												継続	継続
		地域ぐるみで子どもを 見守ります	地域との連携・協働を積 極的に進め、子どもたち の成長を地域と分かち合 う学校	学校評議員会、青少年育成市民会議等により 学校の情報を共有し、地域との協力を進める。				学校評議 員会					学校評議 員会			学校評議 員会	継続	継続

基本方針				取組	実 施 時 期													
柱	方向性	取組内容	目指す姿	具体的行動	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	中期	長期
取り組めます	子どもを育む地域や関係機関との連携を行います	保育所・幼稚園・小中学校の連携を強化します	中学校区における目指す子ども像の実現に向けた教育の連携を推進する保幼小中学校園所	小学校との部活・授業見学等の交流を進めていく。 小学校との入学に係る引継を充実させる。 市の連携会議等での情報を教職員で共有する。 保幼小中連携会議を実施し、情報共有を進めていく。				連携会議		保・幼交流	授業見学		連携会議	小中交流		連携会議	継続 体験授業を実施	継続 体験授業を実施
		関係機関との連携を図ります	関係機関との迅速、円滑な連携を行う学校	学校のケースについて常に家庭児童相談室等の関係機関と連携を図る。	連携												継続	継続
5子どもに対する根絶体罰及びハラスメント	体罰を根絶します	体罰の禁止を徹底します	あらゆる場面での体罰は絶対に許さず、人権感覚豊かな指導を行う教職員	体罰根絶宣言と学校通信や全校集会等で発表する。 体罰根絶に向けた共通理解を図る研修を実施する	学校通信 全校集会 研修				研修					研修			継続	継続
	ハラスメントを根絶します	部活動におけるパワーハラスメントを根絶します	特に部活動が、パワーハラスメントに陥りやすい環境であるとの認識を持ち、体罰は絶対に許さず、人権感覚豊かな指導を行う教職員	特に部活動などの事例を基に、パワーハラスメント根絶に向けた共通理解を図る研修を実施する。	研修				研修					研修			継続	継続
		あらゆるハラスメントを根絶します	暴言・ハラスメントも人権を侵害する行為であり絶対に許されないものである共通認識を持ち、人権感覚豊かな指導を行う教職員	パワーハラスメント根絶宣言を学校通信や全校集会等で発表する。 パワーハラスメント根絶に向けた共通理解を図る研修を実施する。	学校通信 全校集会 研修				研修					研修			継続	継続